H₂Osakaビジョン概要版

策定の背景

① 様々な社会課題の解決に貢献する水素エネルギーの有望性

エネルギーの多様な選択肢の一つとして、水素が活用されている「水素社会」の実現により、 温室効果ガスの削減をはじめ多くの社会課題の解決に貢献できる可能性がある

温室効果ガス 排出削減

エネルギー 抛产批消

BCP対応

など

② 大阪の強みを活かせる産業分野としての水素

水素関連分野に先進的に取り組む企業や、高い技術力を持つ多様で厚みのある中小企業が集積する 大阪は、多種多様な技術が集約される水素Tネルギー産業の発展に大きく貢献できる

リーディングからサポーティングまで幅広く水素エネル ギー産業にチャレンジする先進企業が数多く集積

高度な技術を有するものづくり企業が集積し、新たな 技術・製品を次々と生み出すフルセット型の産業構造

<蓄圧器>

<バルブ・配管類>









など多数



<部門別全国最多事業別> 金属製品・非鉄金属製造 鉄鋼業·化学工業 はん用機械器具等



<世界の水素関連市場予測>

水素は、様々な用途への活用が可能であり、今後、大きく成長することが期待されている市場



今後、市場が本格成長する前に 府内企業が参入することで 競争優付性を獲得

策定の目的

成長産業分野である水素関連事業の取組の方向性を示し、水素の需要拡大につながる新たな 製品・サービスの実用化により、水素利用の幅の拡大を図る

おおさか エネルギー地産地消 推進プラン コージェネ、燃料 電池の導入促進

大阪府内における 水素ステーション 整備計画

FCV ションの 普及促進 整備促進

H₂Osaka 連携 ビジョン

水素利用の幅の拡大

目指す姿

日本の成長をけん引する東西二極の一極として、水素エネルギー産業で存在感を 発揮する大阪の実現に貢献

府内中小企業の高い技術力を生かした 好循環 水素エネルギー産業の振興

国際的なインバウンド拠点である 「大阪」のショーケース機能発揮

取組の方向性と取組内容

取組の方向性

- Ø KIX水素グリッドプロジェクトや府中央卸売市場のメガワット級燃料電池導入といった府内での取組の経験を活かし、戦略的かつ 幅広い分野での実証事業等のプロジェクトを民間企業と連携して創出。事業者の研究開発成果を実用化や事業化につなげる
- Ø 水素エネルギー産業への参入ポテンシャルが高い府内中小企業等に対して、動機付けし、ビジネス参入をサポート

新たな 水素プロジェクト創出

府内事業者の水素Tネルギー産業への 参入意欲醸成

中小企業等の 参入促准

水素エネルギー産業をけん引する事業者との ビジネスマッチングまできめ細かくサポート

将来性のある 産業を大阪から 発展させる

取組内容

く 基本的取組 >

① 産学官プラットフォームの運営

産学官が幅広く結集し、事業者間の交流やアイデア創出を図る 「場」〔プラットフォーム〕として運営していくことにより、新たなプロジェ クト創出につなげていくとともに、これらの取組を府内事業者や府民 に幅広く情報発信していく

H2Osakaビジョン推進会議(仮称) 事業者からの提案等を踏まえ、会議のもとに取組内容別の 研究会等をそれぞれ立上げ、プロジェクト創出につなげていく

② 正しい知識の普及と合理的な規制緩和の推進

- Ø 水素エネルギーの普及にあたっては、水素について「よくわからない」 等と感じている府民に正しく理解してもらうことが重要なことから、 水素に関する正しい知識の普及活動について事業者と一体と なって取り組んでいく
- Ø 規制緩和することに合理的理由があると考えられるものについては、 国へ要望していくなど積極的に取り組んでいく
- < プロジェクト創出に向けた取組 ~水素の「製造」「輸送・貯蔵」「利用」のうち、「利用」分野を中心とした取組を推進~ >

① 産業用車両等への 水素エネルギーの導入促進

燃料電池フォークリフトや燃料電池バスの 普及拡大、燃料電池船の実証事業の 実施など、産業用車両等への水素エネ ルギーの導入を促進

② 純水素型定置用燃料電池の 活用モデルの構築

都市ガス等を機器内で改質した水素ではなく、 機器に供給される水素を燃料とする純水素 型定置用燃料電池の多様な活用モデルの 構築を図る

③ 様々な水素プロジェクトへの挑戦

現在、実証段階にある水素発電をはじめとして、 水素の特性を活かした取組の可能性を探るな ど、大阪が新たな水素ビジネスの拠点となるよう に、事業者とともに積極的に取り組んでいく

取組の展開

- Ø水素エネルギーの需要拡大を図るための取組は、国・自治体・事業者が一体となって長期にわたって推進していく必要がある。 ・2020年度を節目とし、それまでの間をファーストステップの期間として、水素エネルギー利用の幅の拡大につながるような 新たなプロジェクトを積極的に推進
- ・それ以降をセカンドステップの期間として、水素エネルギー産業が大阪経済の成長エンジンとして大きく貢献できるよう、 中長期的視点にたった取組を推進していく

取組期間



セカンドステップ

利活用の定着と更なる拡大に向けた取組の展開

研究開発成果を事業化に 結びつけるための支援方策の検討

実用化技術の普及

※蓄電池、水素・燃料電池 国際カンファレンスin大阪 (平成28年9月開催予定)